



News Letter

No.54

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2023年12月31日発行

【本号のトピックス】

IAGG-AOR 2023 Satellite Symposium 報告／第35回学術大会のご案内
オンラインLive研修会報告／専門医・摂食機能療法専門歯科医師活動レポート
支部だより／認知症関連アクションプランの紹介／オンラインDHセミナーご案内

IAGG-AOR 2023 Satellite Symposium on Gerodontology —Accelerating Academic/Practical Collaboration in Gerodontology in Asian Oceania Region— 開催報告

IAGG-AOR 2023 co-chair of IAGG-AOR 2023 congress
IAGG-AOR 2023 サテライトシンポジウム実行委員会
池邊一典, 小野高裕, 松尾浩一郎

2023 年 6 月に横浜で開催された IAGG-AOR 2023 のスピンアウト企画として、10 月 26 日に、老年歯学に関するサテライトシンポジウムを京都の松風社の会議室にて本会共催にて開催しました。シンポジウムには、台湾、韓国、香港、タイ、シンガポールから演者を招聘し、日本の演者を交えて、午前のメインシンポジウムと午後の Young investigator session を行いました。アジアの各国における老年歯学に関する研究発表がなされました。本学会からは 20 名程度の参加がありました。小規模ながら、会場では積極的なディスカッションが交わされて盛り上がることができました。シンポジウム後のレセプションでも演者との懇親を深めることができました。今後のアジア各国との研究、教育、臨床に関する連

携促進につながるきっかけになったのではないかと考えております。



アジア各国の先生方が京都に集いました



表彰状を手に記念撮影

第35回学術大会のご案内 #JSG24 人生100年時代を切り拓く～口腔の健康を通して～

大会長 山崎 裕
(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野高齢者歯科学教室)

このニュースレターが皆様のお手元に届く頃には、第35回学術大会まであと5カ月ほどになっていることと思います。今回の大会は17年ぶりの北海道で、北海道大学と北海道医療大学での共同開催となります。会場はリニューアルした札幌コンベンションセンターです。コロナ明け初めての単独開催ですので、これまでのうっ憤を晴らすべく、会場もたくさん確保し、盛りだくさんの企画を準備しております。演題登録期限が、1月31日(水)正午と迫っておりますので、お忘れなきようお願いいたします。参加していただいた皆さんにとって、老年歯科の最新情報に接することができる充実した3日間になることと思います。

この季節の札幌は、観光・グルメにはベストシーズンになっています。多くの方々のお越しをオール北海道で心からお待ちしております。

〈会員懇親会について〉

大通公園にほど近いホテルで北海道の名物グルメを集結させますので、北海道を食べ尽くしていただきます。

日 程：2024年6月29日(土)
会 場：札幌ガーデンパレス
<https://www.hotelgp-sapporo.com>



大会 HP



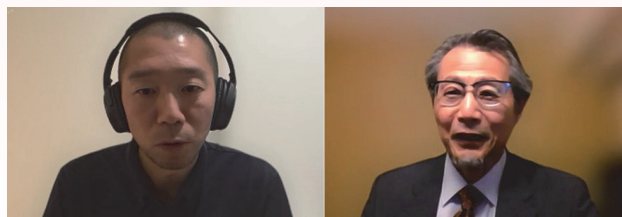
地域包括ケア委員会主催オンラインLive研修会 開催報告

地域包括ケア委員会委員 若杉葉子

10月6日金曜日19時半から、ICTを用いた多職種連携シリーズの2回目、へき地における取り組みについての研修会を開催しました。三重県医療保健部へき地医療総括監、鳥羽市立神島診療所所長の小泉圭吾先生からは、人口が減少しても医療が必要な範囲は変わらないなかで医療を届けるという課題に対して、オンライン診療やそのための道具(遠隔聴診器など)を用いてD to P with Nでの診療スタイルの確立についてお話しいただきました。まんのう町国民健康保険造田歯科診療所所長の木村年秀先生からは、訪問看護も訪問リハもないへき地での多職種連携について、上下関係のない多職種連携の会を開くことで広域的な連携体制ができたこと、急

性期回復期生活期の垂直連携のシステムを拡張したK-Mix+の活用についてご講演いただきました。

126名にご参加いただき、盛会のなか終了しました。ご講演いただいた講師の先生、ご参加いただいた会員の皆様どうもありがとうございました。



講師の小泉先生(左)と木村先生(右)

専門医活動レポート

小金澤一美先生

(滋賀県・医療法人白櫻会小金沢歯科診療所)

大学の歯科口腔外科を経て1986年に開業し、近くの特養から相談され、初めて寝たきり高齢者に出会いました。

1998年、訪問診療をしてきた歯科医師・歯科衛生士と介護支援専門員資格を得て、2000年の介護保険制度施行時に居宅介護支援とヘルパー事業所を開設しました。

その後、嚥下障害対応のショートステイをつくりましたが、利用者の8割は認知症高齢者でした。必要に迫られ学んだ認知症は興味深く、現在は、認知症介護指導者として県の研修を担当しています。

運営しているグループホーム、デイサービス、小規模多機能、看護小規模多機能、訪問看護、サ高住を管理してきたのは、社会福祉士からCMを取得した技工士と地域包括にも出向した主任CMの歯科衛生士です。

多くの看取りを経験して、私たちの課題である口腔機能の低下は、身体機能や精神機能を低下させ、生活全般、さらには、その人の人生の質も落とすことに気づきました。

高齢者歯科医療では口腔からひとりの人を診る視点が重要であると思います。



レッドゾーン内で陽性者に食事提供をする認定医

鎌下祐次先生

(鹿児島県・つくし歯科医院)

大学卒業後、鹿児島大学で約26年間有床義歯学を中心に高齢者歯科を学んで専門医も取得させてもらった後、鹿児島県のほぼ中央に位置する人口約7万8千人の始良市で開業して約10年となります。2017年から数年間、県歯科医師会の医療介護連携委員会に所属し、認知症研修会、オーラルフレイル・口腔機能低下症、多職種連携などの事業にも携わり、地域の医療介護連携の啓発に専門医としてかかわるとともに自分自身の勉強にもなりました。また、開業当初から地域の養護老人ホームの協力歯科医として、また数年前からは、特別養護老人ホームの協力歯科医も務めており、入所者の口腔衛生管理や歯科治

療に携わって参りました。これらの施設では、さまざまな職種が入所者にかかわっており、多職種連携の重要性を実感しています。今後ますます地域包括ケアなどでの歯科の役割が重要になることが予想され、老年歯科専門医としてもこれまで以上に取り組むことが求められていると感じています。



特老での診察風景

間宮秀樹先生

(神奈川県・藤沢市歯科医師会)

藤沢市の高齢化率は2023年1月時点において24.48%で、要介護高齢者の歯科受診機会も増えています。藤沢市歯科医師会は2カ所の診療所を有し、要介護高齢者の固定診療、訪問診療、摂食嚥下指導を行っています。

私は大学で歯科麻酔学を25年間学んだ後に、当地で父の歯科医院を引き継いで開業しました。そして歯科医師会診療所では歯科麻酔科医として、患者の全身管理を行っています。老年歯科専門医としては会の症例検討会で座長を務めるとともに、毎年、学会への演題発表を行い、藤沢市歯科医師会の活動の周知に努めています。100歳以上の患者の受診も増えてきており、103歳の患者の抜歯を訪問で行ったこともあります。どちらも学会で報告したため、ご記憶の方もいらっしゃるかもしれません。自院では高齢者歯科診療の難しさを日々痛感しており、同僚の先生方に教を請いつつ、その経験を歯科医師会での診療にfeedbackしています。



会の診療所では全症例モニタリングをしています

摂食機能療法専門歯科医師活動レポート

井関史子先生

(独立行政法人国立病院機構 東京病院)

当院は病床数 522 床（結核病床数 100 床）の呼吸器内科を主体とした総合病院です。摂食嚥下障害への対応はリハビリテーション科、呼吸器内科、脳神経内科、緩和ケア内科など複数科に及びます。摂食嚥下障害の評価・訓練はリハビリテーション科が主に担っていますが、摂食機能療法専門歯科医師としては VF・VE の検査に入っています。検査場面では、リハビリテーション科医師だけでなく、患者担当の医師、ST・PT・OT、栄養士、看護師とともにディスカッションし、食形態、食事姿勢、摂取方法、間接訓練方法などを遅滞なく患者に反映し対応するようにしています。同時に口腔内診察もその場で行い、歯科未介入の患者に対しては歯科依頼を促し専門的口腔管理につなげています。一般病院に勤務する摂食機能療法専門歯科医師として多職種とともに摂食嚥下障害患者にかかわることで、入院中から退院後まで生活を支えていきたいと思っています。



嚥下造影検査（VF）



嚥下内視鏡検査（VE）

村田志乃先生

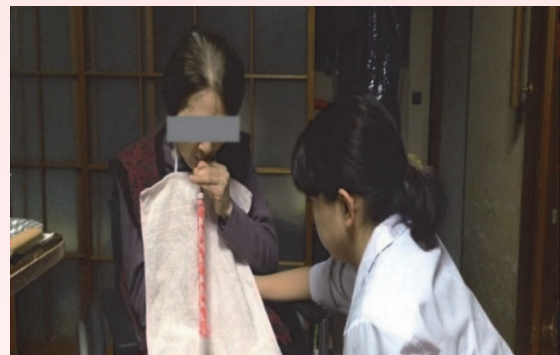
(医療法人社団悠翔会 悠翔会在宅クリニック
歯科診療部)

大学病院で高齢者歯科と摂食嚥下障害の臨床経験を積んだ後、在宅医療の分野に転身して 9 年が経過しました。現在は、在宅医療を提供する医療法人の歯科診療部に勤務しています。

在宅医療は患者さんが生活する自宅や施設が診療の場となり、患者さんの環境や日常生活を直接みることができます。食事や口腔ケアは日常生活の一部であり、歯科診療を通じて在宅療養中の患者さんの生活を支えることができることにやりがいを感じています。

また、在宅医療では患者さんの人生の終末期にかかわることが多くあります。認知症や老衰が進行して食事摂取が困難になる患者さんが穏やかに最期を迎えるために、医療や介護のスタッフが協力して患者さんとそのご家族をサポートするチームの役割の重要性を痛感しています。

「住み慣れた場所で最期まで安心して暮らす」という患者さんの願いを叶えるお手伝いをするために、これからも努力し続けたいと思います。



在宅での診療の様子



施設でのミールラウンドの様子

| 支 | 部 | だ | よ | り |



岡山支部共催 「病院歯科介護研究会 第25回総会・ 学術講演会」開催報告

岡山支部長 角谷真一

2023年10月29日(日)岡山国際交流センターにて標記講演会を開催、131名に参加していただきました。教育講演として、専門職としての働き方や他職種との協働について看護師の川崎つま子先生よりご講演いただきました。歯科衛生士の先生方には、ベトナムでの介護予防事業や病院・施設での口腔ケアにおける「タスク・シフト/シェア」についてご講演いただきました。久々の対面方式での開催により活気あふれる質疑応答も行われ、有意義な講演会となりました。



講演の様子



シンポジウムでの質疑応答の様子

福岡支部共催 「第17回福岡摂食嚥下サポート研究会」 開催報告

福岡支部長 岩佐康行

2023年12月3日(日)、九州大学医学部百年講堂大ホールにおいて「コロナ禍が終息を迎えつつあるなかで、改めて地域における多職種連携を見直す」ことをテーマに、福岡支部セミナーが開催されました。今回は第17回福岡摂食嚥下サポート研究会と共催で、久しぶりに完全集合型での開催となりました。昨今はオンラインセミナーが盛んなためか、参加者は83名とコロナ禍前の4割程度でしたが、山口、大分、熊本からの参加もありました。講演は福岡歯科大学総合医学講座耳鼻咽喉科学分野教授の山野貴史先生、および令和健康科学大学リハビリテーション学部理学療法学科教授の森下元賀先生による2題、一般演題は5題で活発な議論が行われました。さらに企業6社による展示でも熱心に質問が行われ、「顔が見える」会の目的は十分に達成できたと思われます。末筆となりましたが、開催にあたりご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。



久々に完全集合型での開催でした

令和5年度日本老年歯科医学会・ 群馬支部主催研修セミナーのご案内

日 時：2024年2月12日(月)
13:30~15:30(予定)

会 場：群馬県歯科医師会館 4階第2会議室
テーマ：高齢者の服薬からわかること

講 師：松浦信幸先生(東京歯科大学市川総合病院
歯科口腔外科教授)

※詳細は、学会HPをご覧ください。

「認知症基本法成立を受けた老年歯科医学会の認知症関連アクションプラン2023」のご紹介

認知症関連特任委員会委員長 枝広あや子

2023（令和5）年6月に、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」（以下、認知症基本法）が参議院で可決されました。認知症基本法は、理念法ではありますが、認知症支援のあり方や数値目標に関する初めての法的枠組みであります。当学会は認知症の人への歯科医療に関する責任学会として、認知症の人への歯科医療提供のみならず、教育、政策などさまざまな貢献が期待されています。これらに対する立場表明として、認知症関連特任委員会では、認知症基本法に係る日本老年歯科医学会のアクションプランをホームページ上に公開しました。どうぞご確認ください。



https://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/dementia_20231120.pdf

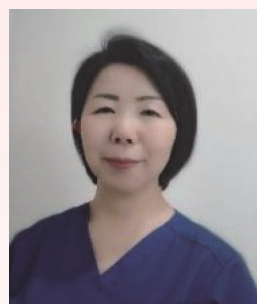
オンライン歯科衛生士セミナー(第12回歯科衛生士関連委員会主催セミナー)のご案内

歯科衛生士が在宅での緩和医療や看取りにかかわるなかで、超高齢社会における高齢者のエンドオブライフ・ケアの概念をもった対応が必要となります。人生の最終段階の患者とその家族に対して、歯科衛生士が具体的にどのようなかわりをもつと良いか、歯科衛生士であり現在は納棺師でいらっしゃる大堀嘉子先生から実践につながるご講演をしていただきます。

日時：2024年2月25日（日）14:00～15:00
Web開催（Zoom配信）

内容：「歯科衛生士に必要なエンドオブライフ・ケアの基礎知識—納棺師・歯科衛生士の視点から—」

講師：大堀嘉子先生（株式会社紫恩）



大堀嘉子先生



編集後記

多くの学会の学術大会が会場での開催へと戻りつつあり、行動制限の時期を経て、いま改めて会員同士が交流できることのありがたさを強く感じています。一方で、自宅や職場から参加できるオンラインLive研修会は自己研鑽の場として貴重であり、対面とオンラインそれぞれの恩恵を享受できるようになりました。いよいよ本学会第35回学術大会の演題登録と参加登録がスタートしました！広報委員会の企画も進行中です。皆様のご参加をお待ちしております。

（小原由紀）



発行人 水口俊介

編集 （一社）日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル（一財）口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail jsg@kokuhoken.or.jp